

S11b 未同定高エネルギー天体 RX J2056.6+4940 の多波長観測

和田 師也 (東京大学/ISAS)、辻本 匡弘、海老沢 研、磯 直樹 (ISAS/JAXA)、森鼻 久美子 (理化学研究所)

近年の宇宙 γ 線観測は INTEGRAL、Swift、Fermi 衛星などの観測により急激に発展してきており、高エネルギー天体の発見が相次いでいる。Fermi 衛星 LAT 検出器による全天 GeV 放射天体カタログには 1451 個もの γ 線放射天体が列挙されているが、このうち種族分類ができたのは全天体の約 60% 程度でしかない。これは、主に γ 線のスペクトルからだけではその天体種族を決定することは難しく、多波長にわたる観測が要求されるためである。しかし、GeV 領域の観測装置はその位置決定精度が低いために、他波長による観測なしには、天体密度の高い低銀緯における GeV 天体の同定は困難である。そこで我々は Fermi 衛星 GeV 天体を母集団として硬 X 線、軟 X 線、超軟 X 線の対応天体を探していくことで低銀緯における γ 線放射天体の位置決定を行った。こうして絞り込んだ未同定高エネルギー天体のひとつが RX J2056.6+4940 である。我々はこの天体に対し、X 線衛星「すざく」と「すばる」望遠鏡の多天体近赤外撮像分光装置 MOIRCS を用いて観測を行った。X 線帯域では軟 X 線から硬 X 線に伸びるべき型スペクトルを示し、鉄輝線が存在しなかった。また 40ks の間に 30% 以上の X 線の減光が見られたものの、フレアやスペクトル硬化などは確認できず、周期性も見出すことはできなかった。MOIRCS によって得られた近赤外線スペクトルからは目立った輝線は見られなかった。以上の結果から、我々はこの天体がブレーザーであると結論付けた。